

令和2年度文部科学省人権教育研究指定校

研究主題

「自分ごと」として学びに取り組む児童の育成

～ 一人一人を大切にした授業づくりを通して ～



台東区立千束小学校

〒111-0032

東京都台東区浅草 4-24-11

電話 03-3876-3717 ファックス 03-3871-9512

表紙の内側
(印刷なし)

目 次

はじめに	校長 瀧島 和則	1
I 研究の概要		
1 研究主題		2
2 研究主題設定の理由		2
3 校内研究構想図		3
4 人権教育全体計画		4
5 研究の内容		5
6 人権教育の年間指導計画		6
II 人権教育の視点を明確にした授業の実践記録		
1 第1学年 算数「3つのかずのけいさん」		12
2 第2学年 道徳「ぐみの木と小鳥」		13
3 第3学年 道徳「清のゆめ ー山下 清ー」		14
4 第4学年 道徳「車いすをあやつって」		15
5 第5学年 総合「共に生きよう！」		16
6 第5学年 体育「フラッグフットボール」		17
7 第6学年 社会「町人の文化と新しい学問」		18
III 人権感覚を養うための日常的な活動の実践記録		19
IV 成果と課題		22
あとがき	副校長 地平 憲司	23

はじめに

校長 瀧島 和則

令和2年度は「新型コロナウイルス感染症」対策に始まり、今も新しい日常に向けて模索する日々が続いています。

恐れるべきはウイルスであり、人ではない。そんな当たり前のことは、誰でも知っています。誰でも分かっています。しかし、悲しいことに「コロナ差別」などという言葉も生まれてきている現実があります。

法務省のホームページ「新型コロナウイルス感染症に関連して－不当な差別や偏見をなくしましょう－」には、次のような記述があります。

まず、冒頭、人と人との接触を8割削減するとの目標の実現に向けて、外出自粛の要請に応えてくださっている国民の皆様に改めて感謝申し上げます。

また、新型コロナウイルス感染症に関連して、昼夜を問わず、最前線で検査や治療などにご尽力されている医療従事者の方々に心からの敬意を表したいと思います。

さらに、生活物資の輸送など社会機能の維持に貢献してくださっている方々にも心から謝意を申し上げます。

しかしながら、これらの方々やその御家族が不当な差別的取扱いを受けるなど悲しい事例も報道されています。

国民が一丸となって感染の拡大に立ち向かうべきときに、こうした方々を傷付けるような不当な差別や偏見は決してあってはなりません。感染者やその属する施設・機関あるいは、我が国に居住する外国人の方々等に対する誤解や偏見に基づく差別もあってはならないものです。

本校は、「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めること」という人権尊重の理念の実現に向けて、令和2年度文部科学省人権教育研究指定校として指定を受け、研究実践を進めてまいりました。そして、そのキーワードを「自分ごと」と設定しました。これからの社会の変化は、これまで我々が経験したことのない速さ、かつ大きなものとなる中で、「自分ごと」は、時代を超えて変わらない価値のあるものであると確信しています。そして、このような変化に対応していくためには、自ら歩む、学びに取り組む姿が求められます。本年は、一人一人を大切に授業実践を通して、心の育成に取り組んでまいりました。

私たちは、今後も人権課題に関わる取組の系統的な指導を検証し、人権尊重の理念の実現に向け、研修を積み上げていく所存です。

結びになりますが、本校の研究推進に当たり、親身になって御指導いただいた中央大学教授 池田賢市先生、東京女子体育大学准教授 末永祐介先生、東京女子体育大学教授 野口敏朗先生、東京学芸大学准教授 細川太輔先生に心から感謝を申し上げます。さらに、このような研究の機会を与え、支えてくださいました東京都教育委員会、台東区教育委員会の皆様に感謝申し上げます。

I 研究の概要

1 研究主題

『「自分ごと」として学びに取り組む児童の育成～一人一人を大切にしたい授業づくりを通して～』

2 研究主題設定の理由

本校は昭和 47 年以来、東京都教育委員会人権尊重教育推進校として、人権教育を推進してきた。人権教育は本校の学校経営計画や、校内研究の要となっている。人権尊重教育推進校として、人権教育を広く普及、啓発していくことが使命であると捉えている。

本校ではこれまでに、人権課題を取り扱った単元開発を行い、系統的・段階的な取組を進めてきた。児童の発達の段階に合わせて、普遍的な視点からの取組、個別的な視点からの取組を定め、地域性についても考慮して単元の計画を立て、実践している。

人権教育は各教科等で「人権教育の視点」を意識して授業を行えば、知識的側面、価値的・態度的側面、技能的側面の資質・能力を育むことができる。そこで、各教科等の目標や単元の特性に応じた「人権教育の視点」を設定し、人権教育を実践してきた。それによって、一層各教科等の目標を意識した授業を行うことができるようになり、教師の授業力向上にもつながった。

平成 30・令和元年度は、東京都教育委員会人権尊重教育推進校の指定を受け、『「自分ごと」として学び、学ぶことを楽しむ児童の育成』を研究主題として研究を進めた。そして、「人権の意義・内容や重要性について理解し、いじめや偏見、差別をなくそうとする意欲や態度を養う」こと、「友達と関わり合いながら、思考力・判断力・表現力を身に付ける」こと、「自分自身を大切にするとともに、相手の気持ちや立場を大切にすること」を本校の人権教育の目標と設定した。

この目標を達成するため、各教科等において人権教育の視点を明確にした上で、実践を進めてきた。発達の段階に応じて繰り返し人権課題に関する実践を進めた結果、人権教育に対する児童の理解が深まった。一方で、人権が尊重される社会づくりに向けた実践力につながるよう、更に取組内容を充実させる必要があるという課題もあった。また、「自分ごと」として学習に取り組めるようにするためには、「自己肯定感を高めること」や「友達と学び合ったり、認め合ったりすること」、「温かな学級の雰囲気」が大切であると考えた。

そこで、今年度は文部科学省人権教育研究指定校として、研究主題を『「自分ごと」として学びに取り組む児童の育成～一人一人を大切にしたい授業づくりを通して～』とした。

本校では、研究に迫るための手だてとして

- 1 自己肯定感、学級・学校に対する親しみを育む。
→友達との認め合い・学び合い・温かい学級の雰囲気づくり
- 2 学びの自覚（どんなことができるようになったか、未来にどうつながるか）をもたせる。
→教師の言葉掛け、振り返り
- 3 考えるための技法を身に付けさせる。
→思考ツールの活用、発問の工夫

ということが大切だと考えた。

そして、この研究主題に迫るためには人権教育の視点を明確にした授業を行うとともに、「自他を認め合える」授業を実践していくことが大切であると考えた。本研究を通して多様な考えを受け入れ、一人一人が大切にされていると実感できるような授業を進めていくことを目指して研究主題を設定した。

3 校内研究構想図

児童の実態

保護者や地域の願い

教職員の願い

千束小学校の人権教育の目標

- ・人権の意義・内容や重要性について理解し、いじめや偏見、差別をなくそうとする意欲や態度を養う。
- ・友達と関わり合いながら、思考力・判断力・表現力等を身に付ける。
- ・自分自身を大切にするとともに、相手の気持ちや立場を大切にする。

<知識的側面>

- ・自由、責任、正義、平等、尊厳、権利、義務、相互依存性、連帯性等の概念への理解
- ・人権の発展・人権侵害等に関する歴史や現状に関する知識 等

<価値的・態度的側面>

- ・自他の価値を尊重しようとする意欲や態度
- ・多様性に対する開かれた心と肯定的評価 等

<技能的側面>

- ・他者の痛みや感情を共感的に受容できるための想像力や感受性
- ・複数の情報源から情報を収集・吟味・分析し、公平で均衡のとれた結論に到達する技能 等

研究主題

「自分ごと」として学びに取り組む児童の育成

～ 一人一人を大切にした授業づくりを通して ～

目指す児童像

「自分ごと」として学びに取り組む児童

- 低学年・・・自分と友達の思いや考えを大切にする児童
- 中学年・・・自分の思いや願いをもち、友達と協働しながら課題に取り組む児童
- 高学年・・・友達の意見を取り入れながら自分の考えを深め、活用する児童

<普遍的な視点からの取組の充実>

- 各教科・領域の特性に合わせた授業を設定する。
- 目的意識やゴールイメージをもたせ、「自分ごと」として取り組ませる。
- 児童一人一人が大切にされると実感できるような授業づくりをする。

- ・人権教育の視点、人権教育に関わる留意点を明確にした授業の充実
- ・児童が学習課題について「自分ごと」として学習に取り組めるようにするための、思考ツールの活用

<個別的な視点からの取組の充実>

- 偏見や差別があることを知り、偏見や差別をなくそうとする意欲や態度を育てる。
- 体験を通して自分のこととして学ぶ。
- 正しいことを自分で判断し、行動につなげていく。

- ・人権課題に関わる取組の学年間・教科間の関連の関連付け
- ・人権課題「障害者」「同和問題」「インターネットによる人権侵害」に関わる取組の充実

<日常的な活動の充実>

- 相手の気持ちを思いやる心情を養う。
- 地域に感謝し、愛着をもてるようにする。
- 人権感覚を磨く。

- ・千束スタンダード
- ・校内スピーチ大会
- ・努力を認める取組
- ・あおぞらグループ活動
- ・千束幼稚園との交流
- ・人権の花の取組
- ・人権標語づくり 等

・OJTによる教師の授業力向上

・人権課題に関わる教職員の研修

4 人権教育全体計画

<p>【人権に関する法令等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本国憲法 ・教育基本法 ・学習指導要領 ・人権教育及び人権啓発の推進に関する法律 ・人権教育・啓発に関する基本計画 ・東京都オリンピック憲章にうたわれる人権尊重の理念の実現を目指す条例 ・東京都人権施策推進指針 ・東京都教育委員会の教育目標及び基本方針 ・人権教育の指導方法等の在り方について ・児童の権利に関する条約 ・台東区教育委員会教育目標 ・台東区学校教育ビジョン ・学びのキャンパス台東アクションプラン 	<p>【学校の教育目標】</p> <p>人間尊重の精神をふまえ、自ら考え正しく判断し、主体的・実践的に取り組む人間性豊かな児童の育成を期する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○明るくたくましい子 ○深く考え最後までやりとげる子 ○思いやりのある心の豊かな子 	<p>【目標策定の方針】</p> <p>＜児童の実態＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・素直で明るく、子供らしい。 ・基本的な生活習慣を確立させる必要がある。 ・自分で考え、考えたことなどをはっきりと伝えることがさらにできるよう指導していく必要がある。等 <p>＜保護者・地域の願い＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着・向上 ・元気で礼儀正しい子供の育成 ・いじめを絶対に許さない学校 <p>＜教職員の願い＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心豊かで思いやりのある子になってほしい。 ・自分で考え、分かりやすく伝えることができるようになってほしい。
<p>【人権教育の目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権の意義・内容や重要性について理解し、いじめや偏見、差別をなくそうとする意欲や態度を養う。 ・友達と関わり合いながら、思考力・判断力・表現力等を身に付ける。 ・自分自身を大切にするとともに、相手の気持ちや立場を大切にする。 		

【人権教育を通じて育てたい資質・能力】		
<p>＜知識的側面＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自由、責任、正義、平等、尊厳、権利、義務、相互依存性、連帯性等の概念への理解 ・人権の発展・人権侵害等に関する歴史や現状に関する知識等 	<p>＜価値的・態度的側面＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自他の価値を尊重しようとする意欲や態度 ・多様性に対する開かれた心と肯定的評価等 	<p>＜技能的側面＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他者の痛みや感情を共感的に受容できるための想像性や感受性 ・複数の情報源から情報を収集・吟味・分析し、公平で均衡のとれた結論に到達する技能等

人権教育の視点を明確にした教科等の指導	日常的な指導	
<p>＜普遍的な視点からの取組＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「人権教育の視点」を明確にした授業実践 ・一人一人を大切に授業実践 <p>「同和問題に関わる学習」</p> <p>第3学年 社会科 「わたしたちのまちの工場たんけん」</p> <p>第4学年 総合的な学習の時間 「だれもが住みよいまちをめざして」</p>	<p>＜個別的な視点からの取組＞</p> <p>人権課題「障害者」 第5学年 総合的な学習の時間 「共に生きよう！」</p> <p>人権課題「同和問題」 第6学年 社会科 「町人の文化と新しい学問」</p> <p>人権課題「インターネットによる人権侵害」 第5学年 学級活動 「正しく安全なインターネットの使い方を考えよう」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・千東スタンダード ・校内スピーチ大会 ・努力を認める取組 ・あおぞらグループ活動（異学年交流） ・千東幼稚園との交流 ・人権の花の取組 ・人権標語づくり 等

【人権教育の年間指導計画作成のための方針】
<ul style="list-style-type: none"> ・主に高学年で個別的な視点からの取組を行う。 ・他教科・領域や日常活動、学年間のつながり（系統性）を明確にする。 ・異学年交流や幼稚園との交流を積極的に行い、心が触れ合う機会や場を設ける。

<p>【教職員の研修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権教育プログラムの活用研修会 ・授業力向上のためのOJTを活用した取組 等 	<p>【校種間の連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区内小中学校の人権教育担当者との定期的な情報交換 ・千東幼稚園との連携 等 	<p>【家庭・地域との連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校・PTA・地域行事への相互参加 ・関係諸機関との連携 等
---	--	--

5 研究の内容

研究主題に迫るために、次の3点を研究の柱とした。

①普遍的な視点からの取組の充実	②個別的な視点からの取組の充実	③人権感覚を養うための日常活動の充実
<ul style="list-style-type: none"> ○ 各教科・領域の特性に合わせて、人権教育の視点を明確にした授業を行う。 ○ 児童が「自分ごと」として、意欲をもって学びに取り組めるよう学習活動を工夫する。 ○ 児童一人一人が大切にされていると実感できるような授業づくりのために、友達との認め合い・学び合い・温かい学級の雰囲気づくりを大切にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 重点的に取り組む人権課題を「障害者」「同和問題」「インターネットによる人権侵害」とし、学年間・教科間の関連を意識し、6年間で系統的に人権課題に触れられるよう学習を進める。 ○ 人権課題を「自分ごと」として学べるよう、体験的な学習を取り入れる。 ○ 正しいことを自分で判断し、行動にかなげられるよう、人権課題について自分の考えをまとめる場面を設ける。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;"><人権課題に関わる取組の系統的な指導></p> <p>第3学年 社会科 「わたしたちのまちの工場たんけん」</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>第6学年 社会科 人権課題「同和問題」 「町人の文化と新しい学問」</p> <hr/> <p>第4学年 総合的な学習の時間 「だれもが住みよいまちをめざして」</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>第5学年 総合的な学習の時間 人権課題「障害者」「共に生きよう！」</p> </div>	<p><日常的な指導></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 千束スタンダード <p><自尊感情の向上></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 校内スピーチ大会（各学期） ○ 努力を認める取組 <ul style="list-style-type: none"> ・ 音読 ・ ランRUNフェスティバル（持久走） ・ ブラスバンド <p><人との関わり></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ あおぞらグループ活動（異学年交流） ○ 千束幼稚園との交流 <p><生命を尊重する態度の育成></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 人権の花の取組 <p><人権の意義・内容の理解></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 人権標語づくり（各学期）

①②を支える教員の授業力向上の取組の充実（OJT）

人権教育の成立基盤としての教育・学習環境を充実させるために、教員の授業力向上を図った。

全教員年間3回の授業相互観察

- 教員同士で授業を観察し、学習指導案を検討したり振り返りを実施したりする。
- 人権教育の視点、人権教育に関わる留意点を記載した学習指導案を活用する。

研修会

- 各教員による研修
 - ・ 人権教育研修について
 - ・ 一人一人を大切にしたい学級経営について
 - ・ 組体操の指導法について
 - ・ 道徳教育の充実に向けて
 - ・ オリンピック・パラリンピック教育について

令和2年度 人権教育の年間指導計画
台東区立千束小学校 第1学年

第1学年では、児童一人一人が生き生きと学校生活を送ることができるよう、小学校の入門期ということ踏まえ、教師との信頼関係や望ましい人間関係の育成を重視した年間指導計画を作成した。

人権教育の年間指導計画作成のための方針(第1学年)

- 教師と児童との信頼関係を築くとともに、人との関わりを広げたり、深めたりする体験活動を意図的・計画的に設定し、実践する。
- 児童一人一人のよさを認めたり、互いに学び合ったり、認め合ったりする学習を展開する。
- 地域の高齢者などの交流活動を、教科等と関連させた指導を図り、人権課題につながる指導を行う。

6 人権教育の年間指導計画

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
各教科	<p>体育「体ほぐし運動遊び」: 決まりを守って友達と関わり合いながら運動する楽しさに気付く。</p> <p>国語「みんなにはなそう」: 身近なことや経験のことから話題を決め、必要なことを思い出し、順序を考えて話す活動を通して、相手に分かるように話す力を身に付ける。</p> <p>国語「おおきなかぶ」: 場面の様子を想像しながら読む活動を通して、みんなで助け合っているかぶのおもしろさを読み取る力を身に付ける。</p>	<p>国語「かぼちゃのつる」: A 節度、節制:人の忠告や聞き入れられることの意義や大切さを自覚し、自分の言動を反省してわがままをしないよう生活を送る。心育を育てる。</p> <p>ねC 勤労、公共の精神:先生や友達と一緒に協力し合って学校生活を楽しく充実したものにしようとする心育を育てる。</p>	<p>国語「はしの上的のおおかみ」: B 親切、思いやり:身近にいる友達や弱い人に意地悪をしたりわがままをしないよう、誰に対しても思いやりの心をもち、親切にしようとする心育を育てる。</p>	<p>国語「あひさつ」: B 礼儀:気持ちのよい挨拶、言葉遣い、動作などを心がけて誰にでも明るく接しようとする心育を育てる。</p>	<p>算数「3つのかずのけいさん」: 3つの数の式の表し方や計算の仕方方を身に付ける。</p>	<p>国語「やくそく」: くじらぐも:場面の様子を想像して、昆虫や動物などが登場するいろいろな物語へ読み広げる力を身に付ける。</p>	<p>国語「もどちのことし」: 物とよく見て、観察したことを文章にまとめ、活動を通して、書くことと読むことに必要事項をまとめる力を身に付ける。</p>	<p>国語「ボール蹴りゲーム」: ゲームの行い方を知り、みんなが楽しくゲームができる場や得点の仕方を選んだり、工夫したりすることができる。</p>	<p>国語「おとどろき」: B 感謝:自分が多くの人に支えられて日々の生活を送ることができていることを自覚し、お世話になっている人一人一人に感謝する心育を育てる。</p>	<p>国語「おとどろき」: B 友情、信頼、互いの気持ち:尊重して仲良く助け合い相手のことを思いやり、気持ちのすばらしさを表そうとする心育を育てる。</p>	<p>国語「おとどろき」: B 感謝:自分が多くの人に支えられて日々の生活を送ることができていることを自覚し、お世話になっている人一人一人に感謝する心育を育てる。</p>	
特別教科 道徳												
特別活動	<p>1年生を迎える会:全校児童に祝ってもらったこと小学生になった喜びを感じる。</p>	<p>全校運動会:お互いに思いやり、心をもち協力し合う。</p>	<p>全校遠足:お互いに思いやり、心をもち協力し合う。</p>	<p>全校運動会:お互いに思いやり、心をもち協力し合う。</p>	<p>全校運動会:お互いに思いやり、心をもち協力し合う。</p>	<p>全校運動会:お互いに思いやり、心をもち協力し合う。</p>	<p>全校運動会:お互いに思いやり、心をもち協力し合う。</p>	<p>全校運動会:お互いに思いやり、心をもち協力し合う。</p>	<p>全校運動会:お互いに思いやり、心をもち協力し合う。</p>	<p>全校運動会:お互いに思いやり、心をもち協力し合う。</p>	<p>全校運動会:お互いに思いやり、心をもち協力し合う。</p>	<p>全校運動会:お互いに思いやり、心をもち協力し合う。</p>
生活科												
その他	<p>保護者会:家庭からの連絡等から児童一人一人の実態を把握する。</p>	<p>運動会:協力し合った演技をする。地域の高齢者を招待し、交流を深める。</p>	<p>あひさつ運動(通年):あひさつを通して、温かい人間関係の基礎をつくる。</p>	<p>あひさつ運動(通年):あひさつを通して、温かい人間関係の基礎をつくる。</p>	<p>あひさつ運動(通年):あひさつを通して、温かい人間関係の基礎をつくる。</p>	<p>あひさつ運動(通年):あひさつを通して、温かい人間関係の基礎をつくる。</p>	<p>あひさつ運動(通年):あひさつを通して、温かい人間関係の基礎をつくる。</p>	<p>あひさつ運動(通年):あひさつを通して、温かい人間関係の基礎をつくる。</p>	<p>あひさつ運動(通年):あひさつを通して、温かい人間関係の基礎をつくる。</p>	<p>あひさつ運動(通年):あひさつを通して、温かい人間関係の基礎をつくる。</p>	<p>あひさつ運動(通年):あひさつを通して、温かい人間関係の基礎をつくる。</p>	<p>あひさつ運動(通年):あひさつを通して、温かい人間関係の基礎をつくる。</p>

【 】 個別の視点からの取組() は人権課題

【 】 人権課題

【 】 人権課題

【 】 人権課題

令和2年度 人権教育の年間指導計画
台東区立千束小学校 第2学年

考え方 第2学年では、教師と児童の信頼関係や児童相互の好ましい人間関係を育てるために、心が触れ合う機会や場を設け、助け合う態度の育成を重視した年間指導計画を作成した。

人権教育の年間指導計画作成のための方針(第2学年)

- 教師と児童の信頼関係を築き、一人一人のよさを認めることを重視した指導をする。
- 児童の望ましい人間関係の育成のために、授業においては、児童が関わり合う活動を行うようにし、共に学び合うことの大切さを実感することのできる授業を展開する。
- 生活科の学習の時間を中心に1年生や地域の人たちとの関わりを深める中で、年間を通して効果的な学習指導を行う。

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
各教科	国語「ふきのとう」: 話の様子が分かるように、グループで役に分かれて音読をする。	国語「かみさつ名人になる」: 見つけたことや気付いたことを記録して文章に書く。また、書いたことを友達と読み合う。	国語「どうぶつ園のじゅりい」: 順序よくお話を読み、友達が読んで考えたことを聞いて感想をもつ。	国語「お母さんの手」: C家族愛、家庭生活の充実、父母、祖父母を敬愛し、進んで家の手伝いをしようとする態度を養う。	「ぐみの木と小鳥」: B親切、思いやり、相手のことを考えて進んで親切にする心情を育てる。	「うさぎのみみた」: A節度、節制、健康や安全に気を付け、物や金銭を大切にせよ、わがままをしない、規則正しい生活をしようとする心情を育てる。	「おへそのあな」: D生命の尊厳、生きることのすばらしさを知り、生命を大切にしようとする心情を育てる。	「お母さんの手」: C家族愛、家庭生活の充実、父母、祖父母を敬愛し、進んで家の手伝いをしようとする態度を養う。	「生きていくって、どんなこと?」: D生命の尊厳、生きることのすばらしさを知り、生命を大切にしようとする心情を育てる。	「いただきます」: B感謝、日頃お世話になっている人への感謝の気持ちを育つ。	「行け!ポワイト」: インパルス」: C勤労、公共の精神、働くことのよさを知り、みんなのために働く態度を養う。	国語「スノーホワイト」: 馬:場面の様子を思い浮かべながら、登場人物の気持ちや行動を読み取る。
特別の教科 道徳	「べんきようがはじまるよ」: A節度、節制、健康や安全に気をつけて、物や金銭を大切にしようとする心情を育てる。	「どちらがすてきかな?」: B礼儀、気持ちのよい挨拶、言葉遣い、動作など、心掛けて、明るく接しようとする心情を育てる。	「ごめんね、もえちゃん」: B親切、思いやり、身近にいる人に、温かい心で接しようとする心情を育てる。	「おへそのあな」: D生命の尊厳、生きることのすばらしさを知り、生命を大切にしようとする心情を育てる。	「ぐみの木と小鳥」: B親切、思いやり、相手のことを考えて進んで親切にする心情を育てる。	「うさぎのみみた」: A節度、節制、健康や安全に気を付け、物や金銭を大切にせよ、わがままをしない、規則正しい生活をしようとする心情を育てる。	「お母さんの手」: C家族愛、家庭生活の充実、父母、祖父母を敬愛し、進んで家の手伝いをしようとする態度を養う。	「お母さんの手」: C家族愛、家庭生活の充実、父母、祖父母を敬愛し、進んで家の手伝いをしようとする態度を養う。	「生きていくって、どんなこと?」: D生命の尊厳、生きることのすばらしさを知り、生命を大切にしようとする心情を育てる。	「いただきます」: B感謝、日頃お世話になっている人への感謝の気持ちを育つ。	「行け!ポワイト」: インパルス」: C勤労、公共の精神、働くことのよさを知り、みんなのために働く態度を養う。	「ほんとはちがだよ」: B友情、信頼、友達と仲よくし、助け合おうとする心情を育てる。
特別活動	1年生を迎える会:協力して1年生を迎える。	学校活動「はじめのない学級作り」: 望ましい人間関係作りに向けて、はじめのない学級作りについて話し合う。	「いきものなかよし大作戦」: 生き物の飼育観察を通して、生き物に親しみをもち大切に飼育を続けることができる。	「おいしくそだて わたしのやさしい」: 植物の栽培を通して、それに生命があることや、成長していることに気付くことができる。	「いきものなかよし大作戦」: 生き物の飼育観察を通して、生き物に親しみをもち大切に飼育を続けることができる。	「おいしくそだて わたしのやさしい」: 植物の栽培を通して、それに生命があることや、成長していることに気付くことができる。	「いきものなかよし大作戦」: 生き物の飼育観察を通して、生き物に親しみをもち大切に飼育を続けることができる。	「おいしくそだて わたしのやさしい」: 植物の栽培を通して、それに生命があることや、成長していることに気付くことができる。	「いきものなかよし大作戦」: 生き物の飼育観察を通して、生き物に親しみをもち大切に飼育を続けることができる。	「おいしくそだて わたしのやさしい」: 植物の栽培を通して、それに生命があることや、成長していることに気付くことができる。	「いきものなかよし大作戦」: 生き物の飼育観察を通して、生き物に親しみをもち大切に飼育を続けることができる。	「おいしくそだて わたしのやさしい」: 植物の栽培を通して、それに生命があることや、成長していることに気付くことができる。
生活科	「春だ 今日から2年生」: 四季や生活の変化に気付くとともに、自分自身の成長を喜ぶ。	「おいしくそだて わたしのやさしい」: 植物の栽培を通して、それに生命があることや、成長していることに気付くことができる。	「いきものなかよし大作戦」: 生き物の飼育観察を通して、生き物に親しみをもち大切に飼育を続けることができる。	「おいしくそだて わたしのやさしい」: 植物の栽培を通して、それに生命があることや、成長していることに気付くことができる。	「いきものなかよし大作戦」: 生き物の飼育観察を通して、生き物に親しみをもち大切に飼育を続けることができる。	「おいしくそだて わたしのやさしい」: 植物の栽培を通して、それに生命があることや、成長していることに気付くことができる。	「いきものなかよし大作戦」: 生き物の飼育観察を通して、生き物に親しみをもち大切に飼育を続けることができる。	「おいしくそだて わたしのやさしい」: 植物の栽培を通して、それに生命があることや、成長していることに気付くことができる。	「いきものなかよし大作戦」: 生き物の飼育観察を通して、生き物に親しみをもち大切に飼育を続けることができる。	「おいしくそだて わたしのやさしい」: 植物の栽培を通して、それに生命があることや、成長していることに気付くことができる。	「いきものなかよし大作戦」: 生き物の飼育観察を通して、生き物に親しみをもち大切に飼育を続けることができる。	「おいしくそだて わたしのやさしい」: 植物の栽培を通して、それに生命があることや、成長していることに気付くことができる。
その他	保護者会:家族からの連絡等から児童一人一人の美態を把握する。	運動会:協力し合って演技をする。地域の高齢者を招待し、交流を深める。	人権の花活動:学級ごとに花を育てることで、優しさや思いやり、心情を育てる。	音楽会:協力し合って合唱・合奏をする。保護者・地域の方を招待し、交流を深める。	音楽会:協力し合って合唱・合奏をする。保護者・地域の方を招待し、交流を深める。	音楽会:協力し合って合唱・合奏をする。保護者・地域の方を招待し、交流を深める。	音楽会:協力し合って合唱・合奏をする。保護者・地域の方を招待し、交流を深める。	音楽会:協力し合って合唱・合奏をする。保護者・地域の方を招待し、交流を深める。	音楽会:協力し合って合唱・合奏をする。保護者・地域の方を招待し、交流を深める。	音楽会:協力し合って合唱・合奏をする。保護者・地域の方を招待し、交流を深める。	音楽会:協力し合って合唱・合奏をする。保護者・地域の方を招待し、交流を深める。	スピーチ大会(6月・11月・3月):友達と意見交流し、人権について考える。

人権課題に関する取組

個別的な視点からの取組()は人権課題

人権課題に関する取組

関連的な指導

令和2年度 人権教育の年間指導計画
台東区立千束小学校 第3学年

考え方 第3学年では、教師と児童の信頼関係や児童相互の望ましい人間関係を育てるために、地域の方々との関わり合いを通して、尊厳や思いやりを育めるよう年間指導計画を作成した。

人権教育の年間指導計画作成のための方針(第3学年)

- 教師と児童の信頼関係を築き、一人一人のよさを認めることを重視した指導をする。
- 児童の望ましい人間関係の育成のために、まず、互いを認め合える子供同士の関係を築く。それを基に、授業において、児童が関わり合う学習活動を行うようにし、共に学び合うことの大切さを実感することのできる指導をする。
- 社会科において地域の皮革産業や、その仕事に携わる人の工夫や努力について調べることで地域社会への誇りや愛情を感じる心情を育む。

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
各教科	理科「1ゼンのかんさつ」:身近な自然に興味をもって触れ合うことで、生命を尊重する態度を養う。	国語「もつと知りたい友だちのこと」:必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えたり、自分の考えをもてたりできるようにする。	「ブラッドレーのせい」:家族愛、家庭生活の充実:家族みんなが協力し合っていて、楽しい家庭を作ろうとする心情を育てる。	「さいたま、光裕君のアサガオ」D生命の尊厳:生命の尊厳を感じとり、生命あるものを大切にしようとする心情を育てる。	理科「花がさいたま」:自分たちで植物を世話することで、生命を大切に育てようとする態度を養う。	「カンボジアからきた転校生」C国際理解、国際親善:他国の人々の文化に親しみ、関心をもとうとする態度を養う。	「清のゆめ」A個性の伸長:自分の特徴に気づき、長所を伸ばそうとする心情を育てる。	「ようちやんのはさみ」C公正、公平、社会正義:誰もが分け隔てなく、自他の権利を大切にしようとする心情を育てる。	社会「くらのうつりかわり」:地域や身の回りにある古いものを見付け、昔のくらの様子を話し合い、地域社会への誇りや愛情を感じる心情を育む。	社会「くらのうつりかわり」:地域や身の回りにある古いものを見付け、昔のくらの様子を話し合い、地域社会への誇りや愛情を感じる心情を育む。	体育「ハンドボール」:互いにルールを守り、協力しながら運動する経験を通して、協力・公正などの態度を身に付ける。	体育「ハンドボール」:互いにルールを守り、協力しながら運動する経験を通して、協力・公正などの態度を身に付ける。
特別の教科 道徳	「貝がら」B相互理解、寛容:相手のことを理解し、互いを尊重しようとする心情を育てる。	「さいたま、光裕君のアサガオ」D生命の尊厳:生命の尊厳を感じとり、生命あるものを大切にしようとする心情を育てる。	「ブラッドレーのせい」:家族愛、家庭生活の充実:家族みんなが協力し合っていて、楽しい家庭を作ろうとする心情を育てる。	「さいたま、光裕君のアサガオ」D生命の尊厳:生命の尊厳を感じとり、生命あるものを大切にしようとする心情を育てる。	「カンボジアからきた転校生」C国際理解、国際親善:他国の人々の文化に親しみ、関心をもとうとする態度を養う。	「清のゆめ」A個性の伸長:自分の特徴に気づき、長所を伸ばそうとする心情を育てる。	「ようちやんのはさみ」C公正、公平、社会正義:誰もが分け隔てなく、自他の権利を大切にしようとする心情を育てる。	「ナホとメグ」B友情、信頼:友達と互いに理解し、信頼し、助け合おうとする心情を育てる。	「花さき山」D感動、畏敬の念:美しいものや崇高なことに感動する心情を育てる。	「ナホとメグ」B友情、信頼:友達と互いに理解し、信頼し、助け合おうとする心情を育てる。	「ナホとメグ」B友情、信頼:友達と互いに理解し、信頼し、助け合おうとする心情を育てる。	「ナホとメグ」B友情、信頼:友達と互いに理解し、信頼し、助け合おうとする心情を育てる。
特別活動	1年生を迎える会:協力して1年生を迎える。	学校活動「いじめのない学級作り」:のぞましい人間関係作りに向けて、いじめのない学級作りについて話し合う。	あおぞらまつり:学級ごとにアドヴァンテージを考え、協力して準備・運営する。あおぞらグループごとにアドヴァンテージを回り、異学年交流を深める。	あおぞらまつり:学級ごとにアドヴァンテージを考え、協力して準備・運営する。あおぞらグループごとにアドヴァンテージを回り、異学年交流を深める。	ふれあい給食:地域の高齢者と会食をし、交流を深める。	全校遠足:班員相互に思いやりや心をもち、友情を深め協力し合う。	人権の花集会:人権の花が咲いた喜びを分かち合うとともに命の大切さについて理解する。	感謝集会:日頃お世話になっている人への感謝の気持ちを伝える。	児童会活動:ユニセフの活動に参加することを通じて、協力して諸活動を行う自主的・実践的な態度を身に付ける。	児童会活動:ユニセフの活動に参加することを通じて、協力して諸活動を行う自主的・実践的な態度を身に付ける。	児童会活動:ユニセフの活動に参加することを通じて、協力して諸活動を行う自主的・実践的な態度を身に付ける。	6年生を送る会:これまでお世話になった6年生に感謝の気持ちを表す。
総合的な学習の時間	手話で歌おう:手話コーラスに取り組み、生活に生かす。	町の不思議発見隊:地域の中で、不思議だと思ったことを見付け、実際に確かめたり、町の人に聞いてもらいながら調査し、分かるところをまとめて発表する。	あいさつ運動(通年):あいさつを通して、温かい人間関係の基礎をつくる。	あいさつ運動(通年):あいさつを通して、温かい人間関係の基礎をつくる。	千束商店街人気アップ大作戦:商店街の方のお話を聞いて、実際に出かけたり、千束商店街のよいところをたくさん見付け、地域の人に知らせる。	千束商店街人気アップ大作戦:商店街の方のお話を聞いて、実際に出かけたり、千束商店街のよいところをたくさん見付け、地域の人に知らせる。	千束商店街人気アップ大作戦:商店街の方のお話を聞いて、実際に出かけたり、千束商店街のよいところをたくさん見付け、地域の人に知らせる。	千束商店街人気アップ大作戦:商店街の方のお話を聞いて、実際に出かけたり、千束商店街のよいところをたくさん見付け、地域の人に知らせる。	地域の行事伝え隊:地域の行事について知りたいと思ったことを見付け、インタビューなどを通して調査し、分かるところをまとめて発表する。	地域の行事伝え隊:地域の行事について知りたいと思ったことを見付け、インタビューなどを通して調査し、分かるところをまとめて発表する。	地域の行事伝え隊:地域の行事について知りたいと思ったことを見付け、インタビューなどを通して調査し、分かるところをまとめて発表する。	
その他	ボランティアフェスティバル:手話コーラスを通して、地域の方と交流を深める。	運動会:協力し合って演技をする。地域の高齢者を招待し、交流を深める。	音楽会:協力し合って合唱・合奏をする。保護者・地域の方を招待し、交流を深める。	音楽会:協力し合って合唱・合奏をする。保護者・地域の方を招待し、交流を深める。	音楽会:協力し合って合唱・合奏をする。保護者・地域の方を招待し、交流を深める。	音楽会:協力し合って合唱・合奏をする。保護者・地域の方を招待し、交流を深める。	音楽会:協力し合って合唱・合奏をする。保護者・地域の方を招待し、交流を深める。	音楽会:協力し合って合唱・合奏をする。保護者・地域の方を招待し、交流を深める。	音楽の集い:協力し合って合唱・合奏をする。地域の方を招待し、交流を深める。	音楽の集い:協力し合って合唱・合奏をする。地域の方を招待し、交流を深める。	音楽の集い:協力し合って合唱・合奏をする。地域の方を招待し、交流を深める。	スピーチ大会(6月・11月・3月):友達と意見交換し、人権について考える。

人権課題に関わる取組

個別の視点からの取組【 】は人権課題

関連的な指導

令和2年度 人権教育の年間指導計画
台東区立千束小学校 第4学年

考え方 第4学年では、よりよい人間関係をつくることができるよう、教師及び児童相互が関わり合う活動を多く設定し、児童が互いのよさを認め合い、協力し、助け合う心を育成する。また、地域の一人ひとりの自覚がもてるような年間指導計画を作成した。

人権教育の年間指導計画作成のための方針(第4学年)
○教師と児童の信頼関係を築いて一人一人のよさを認め、伸ばし、高める指導を行う。
○児童一人一人がよさを発揮し、互いを認め合うことができるようになるために、グループで活動し、意見をまとめ発表する活動を取り入れた学習活動を計画的に行う。
○学級活動において、いじめのない学級作りについて話し合うことで、望ましい人間関係作りをし、人権課題「子供」について学ぶことができるようにする。

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
各教科	国語「白いぼうし」：登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述をもとに捉えることができる。	国語「お礼の気持ちを伝えよう」：間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えることができる。	「ペッドの上の花」：「あふき」C家族愛、家庭生活の充実、登場人物の気持ちや考え、家族の一員として、進んで役立とうとする心情を育てる。	体育「フラッグフットボール」：互いにルールを守り、協力しながら運動する経験を通して、協力、公正などの態度を身に付ける。	社会「玉川兄弟と玉川上水」：偉人の偉業に触れ、郷土への愛着を育てる。	国語「グラスで話し合おう」：話し合いの仕方などを考えることを通して、よりよい学級活動につなげるコミュニケーション能力を身に付ける。	国語「こんざつね」：文章を読んで感じたことや考えたこと共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くことができる。	「ハートで勝負」A個性の伸長：自分の短所を長所に転換する。ケルトボールを続ける田取さんの姿を通して、自らの長所を伸ばそうとする態度を養う。	「いのちのまつり」D生命の尊さ：生命は、速い祖先から受け継いでものであるということに気付き、自分の命、人の命を大切にすることを育てる。	社会「浅草の伝統行事や文化財」：伝統行事や文化財についての学習を通して、技術の素晴らしさを感じ、地域社会への誇りと愛情を感じる心情を育む。	体育「ラケットベース」：互いにルールを守り、協力しながら運動する経験を通して、協力、公正などの態度を身に付ける。	「ちよつと待つ」B相互理解、寛容：自分なく、相手の立場や状況など、相手の言葉の裏側にあるものを考え、広い心で受け止められる態度を養う。
特別の教科 道徳	「学校じま集会」Cよりよい学校生活、集団生活の充実：登場人物の気持ちを考え、協力し合っとうる心情を育てる。	「だが生屋のおおばあちゃん」B感謝：子供たちの気持ちを育つ。涙を流すことを通して、自分たちを支えてくれている人に、尊敬と感謝の気持ちをもつて接しようとする心情を育てる。	全校縦割り活動(あおぞらグループ)：異学年交流を深める。	全校遠足：班員相互に思いやり、心をもち接し、友情を深め、協力し合う。	「泣いた赤おに」B友情、信頼：心が通じ合う赤おにと青おにの姿を通して、互いに信頼し、友達と理解し合おうとする心情を育てる。	「車いすをあげよう」C公正、公平、社会正義：誰に対しても分け隔てをせず、公正・公平な態度で接しようとする態度を養う。	「心で勝負」A個性の伸長：自分の短所を長所に転換する。ケルトボールを続ける田取さんの姿を通して、自らの長所を伸ばそうとする態度を養う。	人権の花集い：人権の花が咲いた喜びを分かち合うとともに命の大切さについて理解する。	感謝集い：日頃お世話になっている人に感謝の気持ちを伝える。	人権標語作り(6月・10月・1月)：自分と共に他の人も大切にしようとする気持ちを育てる。	児童会活動：ユニセフの活動に参加することを通して、協力して諸活動を行う自主的・実践的な態度を身に付ける。	6年生を送る会：これまでお世話になった6年生に感謝の気持ちを表す。
特別活動	1年生を迎える会：協力して1年生を迎える。	学級活動「いじめのない学級作り」に向けて、いじめのない学級作りについて話し合う。 【子供共】	あおぞらまつり：学級ごとにアトラクションを考え、協力して準備・運営する。あおぞらグループごとにアトラクションを回り、異学年交流を深める。	千束幼稚園 つき組との交流：園児と交流し、相手の立場に立って行動する。	誰かが住みよいまちを目標として、高齢者に対する理解を深め、自分ができることを考える。	二つの一成人式発表会をしよう：自分のことを振り返り、成長したことを発表したり、感謝の気持ちを伝えたりする。	安全を守るために：災害等に対する理解を深め、防犯・防災について考える。					
総合的な学習の時間	手話で歌おう：手話コーラスに取り組みことで手話を身近に感じ、生活に生かす。	環境に優しいあおぞらまつりを計画することを通して、環境問題に対する理解を深め、自分ができることを実践する。										
その他	ボランティアフェスティバル：手話コーラスを通して、地域の方と交流を深める。	運動会：協力し合っとうる。地域の高齢者を招待し、交流を深める。	あいつ運動(通年)：あいつを通して、温かい人間関係の基礎をつくる。	人権の花活動：学級ごとに花を育てることで、優しさや思いやりの心情を育てる。	音楽会：協力し合っとうる。合唱・合奏をする。保護者・地域の方を招待し、交流を深める。	音楽集い：協力し合っとうる。合唱をする。地域の方を招待し、交流を深める。	スピーチ大会(6月・11月・3月)：友達と意見交流し、人権について考える。					

人権課題に関わる取組

個別視からの取組()は人権課題

関連的な指導

令和2年度 人権教育の年間指導計画
台東区立千束小学校 第5学年

考え方 第5学年では学級での安心感と友達や教師との安定した関係づくりが重要であると考えた。そのためには、自分を大切に、他者をも大切にすることを重視した。また、多様な体験活動を取り入れ、学校・地域の一員としての自覚をもてるような年間指導計画を作成した。

人権教育の年間指導計画作成のための方針(第5学年)

- 児童が自分や他者の大切さやよさに気付き、互いに認め合う指導を行う。
- 児童のよりよい人間関係をつくるために、関わり合い、学び合う学習活動を計画的に行う。
- 総合的な学習の時間「共に生きよう！」の学習において、人権課題「障害者」について体験活動を通して学ぶことができるようにする。
- 墨田特別支援学校との交流を通して、人権課題「障害者」について学ぶことができるようにする。

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
各教科			理科「めだかの誕生」：魚を育て観察することを通して、生命を尊重しようとする態度を養う。		国語「どちらを選びますか」：自分の考えと友達の違いを共通点と違いを話して、話の内容を整理して話せるようにする。	社会「情報化社会とわたしたちのくらし」：著作権やインターネットによる人権侵害について理解する。 【インターネットによる人権侵害】	体育「フットボール」：協力・公正の態度を育てる。	理科「人の誕生」：魚の誕生と比較、関連付けながら、母体内で成長し生まれることを理解する。	体育「けがの防止」：交通事故や身の周りの生活の危険について理解する。	社会「自然災害を防ぐ」：自然災害の防止と国民生活とのかわりわりを理解する。		
特別の教科 道徳	「ごちそうのむこう」にA節度、節制：自分の生活を見直し、節度ある生活をしようとする心情を育てる。	「運転手さんの一言」B親切、思いやり：相手の立場に立ち、親切に接しようとする心情を育てる。	「マリアン・アンダーソン」C公正、公平、社会正義：どんな人に対しても公正・公平に接し、他者の痛みを共有しようとする心情を育てる。	「日本のナイチンゲール」C勤労、公共の精神：奉仕活動に触れ、公共のたれに役立つとしようとする心情を育てる。	「心にかける屋根シート」B感謝：日々の生活が人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝し、それに応えようとする心情を育てる。	「インターネットの落とし穴」A 善悪の判断、自律、自由と責任：自由には、自分を律する気持ちは大切であることを理解し、責任ある行動をしようとする態度を養う。 【インターネットによる人権侵害】						
特別活動	1年生を迎える会：協力して1年生を迎える。	学級活動「はじめのなごい」学級作り：望ましい人間関係作りに向けて、はじめのなごい学級作りについて話し合う。 【子供】	あおぞらまつり：学級ごとにアトラクションを考え、協力して準備・運営する。あおぞらシヨンを回り、異学年交流を深める。	全校遠足：班員相互に思いやりや心をもち、深い協力し合う。	ふれあい給食：地域の高齢者と会食をし、交流を深める。	人権の花集会：人権の花が咲いた喜びを分かち合うとともに命の大切さについて理解する。	感謝集会：日頃お世話になっている人への感謝の気持ちを伝える。	人権標語作り(6月・10月・1月)：自分と共に他の人も大切にしようとする気持ちは育てる。	児童会活動：ユニセフの活動に参加することを通して、協力的な態度を身に付ける。	6年生を送る会：これまでお世話になった6年生に感謝の気持ちを表す。		
総合的な学習の時間	台東区について知ろう：台東区の伝統を引き継ぐためにできることを考える。				共に生きよう！：障害者に対する理解を深め、自分ができることを考える。 【障害者】					健康チャレンジ：生活習慣と健康の関わりについて調べ、実践する。		
その他	保護者会：家庭からの連絡等から児童一人一人の実態を把握する。		運動会：協力し合って演技をする。地域の高齢者を招待し、交流を深める。		人権の花活動：学級ごとに花を育てることで、優しさや思いやりの心情を育てる。	音楽会：協力し合って合唱・合奏をする。保護者・地域の方を招待し、交流を深める。			音楽の集い：協力し合って合唱・合奏をする。地域の方を招待し、交流を深める。		スピーチ大会(6月・11月・3月)：友達と意見交換し、人権について考える。	

人権課題に関わる取組

【 】 個別視点からの取組() は人権課題

↔ 関連的な指導

第1学年 算数

普遍的な視点からの取組

単元名 3つのかずのけいさん

単元の目標

- 3つの数の加減計算の場面を1つの式に表せることを理解し、その計算が確実にできる。
- 2つの数の加法や減法を基にして、3つの数の加減計算の式の表し方や計算の仕方を、操作や図を用いて考え表現している。
- 3つの数の加減計算について、式の表し方や計算の仕方を、操作や図を用いて考えた過程や結果を振り返り、そのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。

単元計画

時	活動内容
1	数量の関係に着目し、 $3+2+4$ などの計算の仕方を考える。(本時)
2	数量の関係に着目し、 $9-1-3$ などの計算の仕方を考える。
3	数量の関係に着目し、 $5-3+4$ などの計算の仕方を考える。
4	数量の関係に着目し、計算の仕方を考えた過程を振り返り、練習問題に取り組む。

人権教育の視点

- 算数的活動としての基礎的な技能を表現活動を取り入れながら育てることを通して、筋道を立てて考える能力の基礎を養う。

指導の工夫と成果



既習の2つの数の加減計算の意味や計算の仕方に帰着することで、本単元の学習を学ぼうとする姿が見られた。

イラストを用いて、バスの乗り降りの様子を読み取れるように行ったことで、問題場面が分かり易くなり、立式(計算の仕方)を考えようとする姿が見られた。

今後の課題

- 具体物の操作の際、ペアやグループでの活動を取り入れ、どの児童も自分の意見を言えるようにする。
- 計算の式の表し方や計算の仕方はできていた。考えたことや計算の仕方を図を用いて言葉で説明ができるよう、説明の仕方の指導を丁寧に行っていく。

第2学年 特別の教科 道徳 普遍的な視点からの取組

主題名 やさしい気持ち B 親切、思いやり 教材名 「ぐみの木と小鳥」

ねらい

- 病気になって困っているりすを助けようと一生懸命に行動する小鳥の気持ちを考えることを通して、相手のことを考えて、進んで親切にしようとする心情を育てる。

本時の展開

	活動内容
導入	○教材に向かう。 ・友達や周りの人に親切にしてもらったことはありますか。
展開	○教材「ぐみの木と小鳥」を基に考える。 ・ぐみの実を食べて、小鳥はどんな気持ちになったでしょう。 ・小鳥はどんな思いで、「りすさんの様子を見てきてあげましょう。」と言ったのでしょうか。 ・小鳥はどんな気持ちから、「ぼく行ってきます。」と嵐の中へ飛び出して行ったのでしょうか。 ・りすやぐみの木の言葉を聞いて、小鳥はどんな気持ちになったでしょう。 ○自分自身を見つめる。 ・だれかが困っていると気付いた時、あなたはどのようにしたいと思いますか。
終末	○自分自身の在り方につなげる。 ・教師の説話を聞く。

人権教育の視点

- 小鳥が嵐の中でもりすを助けたいという気持ちを考えることを通して、相手の存在を受け入れたり相手のよさを見いだそうとしたりする態度を育てる。

指導の工夫と成果



ペーパーサートを使うことで、児童が登場人物の行動をイメージしやすくなり、気持ちを想像することができた。

ワークシートに気持ちを書いた後、友達と内容を伝え合う活動を通して、他者に自分の考えを認めてもらえるという安心した学級の雰囲気を感じられた。

今後の課題

- 友達の考えを伝え合う活動は、他の教科でも取り入れ、学級全体の活動として定着させていく。
- ペーパーサート以外にもICT機器やBGMなどを効果的に使用することで、児童が物事の考えをより深められるように工夫する。

第3学年 特別の教科 道徳
普遍的な視点からの取組

主題名 ひたむきな心で A 個性の伸長 教材名「清のゆめ ー山下 清ー」

ねらい

- 自分のよさを生かそうとする清の気持ちを考えることを通して、自分の特徴に気付き、長所を伸ばそうとする心情を育てる。

本時の展開

	活動内容
導入	○教材に向かう。 ・画家の山下清さんについて見ていきましょう。
展開	○教材「清のゆめ ー山下 清ー」を基に考える。 ・大粒の涙を浮かべて泣いた清は、どんな気持ちだったでしょう。 ・先生に頭をなでてもらったり、褒めてもらったりしていた清はどんな気持ちだったでしょうか。 ・清が「ようし、もっとたくさんの人に喜んでもらえる絵を描くぞ!」と言ったのは、どんな気持ちからでしょう。 ○自分自身を見つめる。 ・自分の良いところはどんなところだと思いますか。
終末	○自分自身の在り方につなげる。 ・友達の良いところ探しをしましょう。 ・自分の良いところを伸ばすために、どうしたらよいと思いますか。

人権教育の視点

- 自分の良さを生かそうとする清の気持ちを考えることを通して、自分の個性や長所を伸ばすことの大切さについて考え、すすんで自分の個性や長所を伸ばしていこうとする態度を育てる。

指導の工夫と成果



友達の「良いところ」について普段の生活を通して思っていることを、友達のワークシートに書き込んだ。このことで一人一人に長所があることに気付くことができた。



友達が見付けてくれた自分の「良いところ」を自分の体験や考え方とつなげ、自分の個性や長所を伸ばすことについて深く考えることができた。

今後の課題

- 図画工作など他教科と関連させ、山下清の作品のすばらしさを捉えさせる。
- 学習の終末の場面で児童に伝記の本を紹介することで、様々な偉人の生き方に触れさせ、さらによりよい自分に向かう原動力につなげるようにする。

第4学年 特別の教科 道徳 普遍的な視点からの取組

主題名 工夫して平等に C 公正、公平、社会正義 教材名「車いすをあやつって」

ねらい

- 誰もが分け隔てなく充実した生活を送るということについて考えることを通して、自分にできることを行動に移そうとする心情を育て、公正公平な態度で接しようとする態度を育てる。

本時の展開

	活動内容
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○ねらいに対する問題意識をもてるようにする。 「車いすバスケットボールの映像を見たことや、パラリンピアン根木さんのメッセージについて考えたことを振り返る。」 ・根木さんにとっての障害は階段である。 ・根木さんは、「障害はみんなの力でなくすことができる。」と話していた。
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○教材「車いすをあやつって」を基に考える。 ・選手たちのデモンストレーションを見て、「わたし」たちはどんなことを思ったでしょう。 ・スポーツにおいて「工夫次第でみんながそのすばらしさを体験できるよさ」とはどのようなことですか。 ○自分自身を見つめる。 ・様々な立場の人が一緒に生活するとき、大切なことはどんな考え方や行動をすることだと考えますか。
終末	<ul style="list-style-type: none"> ○自分自身の在り方につなげる。 ・教師の説話を聞く。

人権教育の視点

- スポーツを例に、どのような状況でも工夫次第で一人一人が充実した生活を送ることができるということを考える学習を通して、誰に対しても分け隔てをせず、公正公平な態度で接しようとする態度を育てる。

指導の工夫と成果



自分の考えを短冊に書かせ、思考ツールを活用したことにより、どの児童も主体的に活動に参加することができた。



ペア・グループ・全体での話し合いの場を設定したことで、自分の考えをもち、多面的・多角的に考えることができ、考えが深まった。

今後の課題

- 学び合いをより効果的にするための、場に合った思考ツールを活用する。
- 様々な立場の人が一緒に生活するとき、大切なことはどんな考え方や行動をすることだと考えるか、ねらいとする道徳的価値に迫るための発問を工夫する。

第5学年 総合的な学習の時間 個別的な視点からの取組

単元名 「共に生きよう！」 人権課題「障害者」

単元の目標

- 交流活動や調べ学習を通して、障害や障害のある人への理解を深めるとともに、障害者と共にあるべき自分の生き方について考える。

単元計画

時	活動内容
1	今までの学習でどのような人と関わってきたかを想起する。
2～7	パラリンピック競技の体験を通して、選手の障害や競技のルールや工夫、オリンピック競技との違いを調べる。
8・9 (本時)	みんなの調べてきたことを発表し合い、共通点を見付けたり、学習のゴールについて考えたりする。
10～12	障害について本やインターネットで調べる。
13～14	「君が僕の息子について教えてくれたこと」のビデオを見て話し合う。
15～17	福祉作業所の職員の方の話聞く。
18～20	福祉作業所の職員の方の話聞いて、考え方が変わったことを話し合う。
21～23	今後、障害者と共に生きるために、どんなことをしていきたいか考える。

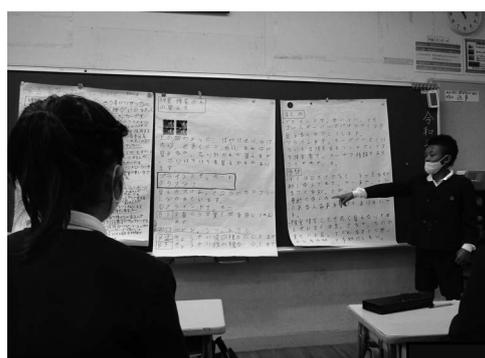
人権教育の視点

- パラリンピックや障害について調べたり、福祉作業所の方と交流したりすることを通して、偏見や差別の現状を知り、障害に対する正しい知識を得るための追究活動をしたり、交流の前後で変化した自分の心情や考えに気付いたりしながら、障害や障害のある人への理解を深め、障害者と共に生きていこうとする態度を育てる。

指導の工夫と成果



単元前半に来年度開催されるパラリンピックを調べる活動を取り入れることで、意欲的に障害や障害者について調べ、まとめることができた。



「ルール」「使用する道具」「障害の種類によるクラス分け」を共通の視点として調べたことにより、全体発表を通して、どの競技も障害の種類や重さに関係なく平等な条件で競えることに気付いていた。

今後の課題

- 福祉作業所の方からの話は聞くことができたが、障害があっても複雑な作業を素早く行う優れた技術は実際に見ることができなかった。できる限り、児童自身が実際に体験できる活動を取り入れ、「障害者と共にあるべき自分の生き方について考える」というねらいに迫れるようにする。

第5学年 体育 普遍的な視点からの取組

単元名 「フラッグフットボール」

単元の目標

- ボール操作とボールを持たないときの動きによって、簡易化されたゲームができるようにする。
- ルールを工夫したり、自己やチームの特徴に応じた作戦を選んだりするとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。
- 運動に積極的に取り組み、ルールを守り仲よく運動したり、勝敗を受け入れたり、場や用具の安全に気を付けたりすることができる。

単元計画

時	活動内容
1	ゲームに慣れ、ルールの工夫をしながら、基本的な動きを身に付ける。 <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・じゃんけんぬきっこゲーム ・ボール運び鬼
2	
3	
4	
5	チームで立てた作戦を実行する。 <ul style="list-style-type: none"> ・チームタイム ・リーグ戦（5の1カップ）
6(本時)	
7	
8	

人権教育の視点

- チームで協力して作戦を立てたり、実行したりすることを通して、自己やチームの課題を見付け、その解決に向けて思考し判断する力、協力・公正などの態度を育てる。

指導の工夫と成果



ゲームの前や間に、基礎的な技能を身に付けたり、作戦を試したりするチームタイムを設定したことで、作戦通りに動くことができるようになった。



毎時間のめあてについて、達成された具体的な姿を学級全体で共有したことで「ルールを守り、仲間と助け合う」「勝敗を受け入れている」「仲間の考えや取組を認める」等の態度が身に付いた。

今後の課題

- 知識及び技能、思考力、判断力、表現力等、学びに向かう力、人間性等をバランスよく、互いに関連付けながら指導していくようにする。
- 本時のめあてに対する振り返りだけでなく、チームで取り組んだ作戦がどうであったかなどプレイについても振り返る視点をもたせるようにする。

第6学年 社会 個別的な視点からの取組

単元名 「町人の文化と新しい学問」 人権課題 「同和問題」

単元の目標

- 歌舞伎や浮世絵、町人の文化が栄え、新しい学問がおこったことを理解する。

単元計画

時	活動内容
1	江戸や大阪のまちの様子について資料を基に調べ、話し合う。
2	近松門左衛門や歌川広重について調べ、歌舞伎や浮世絵がどのように親しまれたのか話し合う。
3	2つの解剖図を比べたり、医学書を翻訳する際の苦労について調べたりする。江戸時代初期と伊能忠敬の日本地図を比べたり、忠敬の測量法を調べたりする。蘭学が人々の考え方に与えた影響について調べ話し合う。
4	国学や本居宣長、江戸時代後半の新しい動きについて調べる。
5	近松門左衛門、杉田玄白、本居宣長がどのようなことをしたのかまとめ、発表する

人権教育の視点

- 「解体新書」を出版するまでの様子について調べることを通して、差別されてきた人々の「腑分け」などの優れた技術や仕事が、医学の発展など江戸時代の社会の発展を支えたことを理解させる。

指導の工夫と成果



資料「2つの解剖図」を提示し、蘭学の影響により、杉田玄白や伊能忠敬が、現在につながる技術を残したことに気付かせることができた。腑分けの場所が身近であること、「蘭学事始」の資料を提示したことで、杉田玄白たちの苦労や思いを感じる姿が見られた。



「差別されてきた人がなぜ腑分けの仕事をしたのか」、「差別されてきた人が腑分けを行わなかったら、杉田玄白らや人々はどのような影響を受けたのか」について考えることで、差別されてきた人の努力により、現在の医学の発展があることを考えることができた。

今後の課題

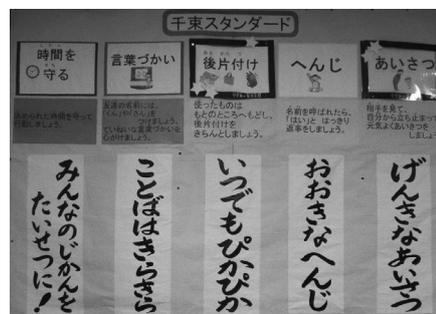
- 取り扱う資料が、教科書、デジタル教材など数多くあったため、教師から提示するのに多くの時間を費やすとともに、児童が比較をするのに苦労した。扱う資料をできる限りまとめたり、精選したりすることで、児童が学習しやすくするとともに、まとめの時間を多く確保できるようにする必要がある。

Ⅲ 人権感覚を養うための日常的な活動の実践記録

日常的な指導

○千束スタンダード

学校生活を送る上で大切な5つの約束について年間を通して全校で取り組んでいます。学期ごとに重点目標を決めています。



自尊感情の向上

○校内スピーチ大会

各学級の代表が全校児童に向けてスピーチします。大勢の人に向けてスピーチできたことや、話の内容について友達や家族等に認められることで、発表した児童の自尊感情が向上すると考えています。学期ごとに低・中・高学年で人権課題等をテーマに取り上げたスピーチも行っています。



○努力を認める取組

「児童が自主的に取り組んでいること」や「教師が児童に継続的に取り組ませていること」など、努力を認める表彰を行っています。児童の努力の成果を認めることで自信をもたせたり、取組を継続させたりすることを目的としています。

音読



年間6作品の音読の課題文に挑戦し、校長先生の前で暗唱ができると合格をもらえる取組を行っています。

ランRUN フェスティバル



2学期を中心に、自己ベストを更新できるように中休みに持久走の練習を行い、ランRUNフェスティバル当日を迎えています。

ブラスバンド



5・6年生の有志が参加しています。継続して活動を続けた児童には、卒業するとき修了証を渡しています。

人との関わり

○あおぞらグループ活動(異学年交流)

全学年を縦に割ったグループで様々な取組をしています。コミュニケーション能力を育むとともに、他者を大切にする心情、上級生においては下級生をまとめていく活動を通して自尊感情を育むことをねらいとしています。

あおぞらタイム



朝の集会や中休みに、グループで遊ぶ時間を設けています。上級生が下級生を思いやりながら遊ぶ姿がよく見られます。

児童集会



今年は新型コロナウイルス感染症のため、分散しながらゲームやクイズに取り組みました。

あいさつ運動



朝登校の時間に門に立ち、挨拶しています。進んで挨拶ができる児童が増えるよう、呼び掛けています。

○千束幼稚園との交流

小学生にとっては年少者をいたわる気持ちを、園児にとっては小学生への憧れの気持ちを育てるために授業や学校行事の中で、千束幼稚園と定期的に交流を行っています。授業での交流は4・5歳児が中心ですが、学校行事においては全園児と全校児童が「千束ファミリー」として関わり合っています。

5年生と5歳児



小学校の大きな体育館でお兄さん・お姉さんと一緒に遊びました。来年度の1年生と6年生なので入学後も安心です。

5年生と5歳児



5歳児が5年生を幼稚園の手作り遊園地に招待しました。一緒に「遊園地ごっこ」を楽しみました。

スポーツフェスティバル参観



小学校のスポーツフェスティバルを5歳児が参観しました。応援団と一緒に元気に応援しています。

生命を尊重する態度の育成

○人権の花の取組

主体的に花を世話し、育てることで、生命を大切にする責任感や思いやりの気持ちを育むことをねらいとしています。10月に異学年のグループごとに人権の花である「アリッサム」の種を蒔きました。みんなで協力して大切に育てていこうと、約束をしました。

種をまこう集会



10月に種を蒔き、春にきれいな花が咲くことを心待ちにしています。飼育・園芸委員会の児童が中心となって準備を進めました。ポスターを作成し、全校へ向けて呼び掛け、取組への意識を高める活動を行いました。

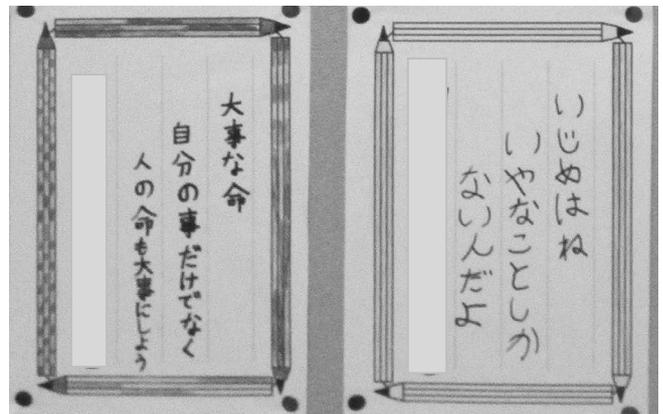
人権の意義・内容の理解

○人権標語づくり

毎学期標語を作成し、校内に掲示しています。

<各学期のテーマ>

- 1 学期：全学年 「親子三行詩」
家庭で話そう！我が家のルール
家族のきずな・命の大切さ 等
- 2 学期：第1～3 学年 あったか言葉
第4～6 学年 命の大切さについて
いじめはやめよう 等
- 3 学期：第1～3 学年 命の大切さについて
いじめはやめよう 等
第4～6 学年 様々な人権課題について
(子供・高齢者・障害者・外国人)



Ⅳ 成果と課題

成果

- ・重点を置いて取り組む人権課題を「障害者」、「同和問題」、「インターネットによる人権侵害」と設定し、人権課題に関わる取組を学年間・教科間で関連付けて指導し、6年間を見通して系統的に取り組んだことにより、実践の積み重ねがより高まった。
- ・教育活動において「自分ごと」として取り組むことを通して、様々な活動に意欲的に取り組むことができ、一人一人の学びが深まった。
- ・友達との認め合い・学び合いの場の工夫や温かい学級の雰囲気づくり、一人一人を大切にした授業づくりを通して、「自分ごと」として学びに取り組む意欲が高まった。

課題

- ・今年度の取組を体系化し、次年度以降の取組に生かし、人権課題に関わる学習の系統的な指導をより効果的に進めていくことが必要である。
- ・日常的な教育活動を通して人権教育に関わる資質・能力を身に付けさせ、日常の場面で実践していく力を伸ばしていけるよう、指導の工夫をしていく。
- ・これまでの研究の積み重ねを今後に生かしていくために、研究授業・協議会や職員研修の充実を図っていく。

御指導いただいた先生方

中央大学教授	池田賢市先生
東京女子体育大学教授	野口敏朗先生
東京学芸大学准教授	細川太輔先生
東京女子体育大学准教授	末永祐介先生
東京都教育庁指導部主任指導主事	志村安先生
東京都教育庁指導部指導企画課指導主事	中山慶政先生

研究に携わった教員

校長	瀧島 和則	算数少人数	笠木 唯	司 書	山中 枝里
副校長	地平 憲司		柴田 竜志	特別支援教室専門員	金子 美才緒
1年1組	東城 照美	音楽	島田 恵子	シニアボランティア	澁谷 詔子
2年1組	山村 奈美	図画工作	山本 爽佳	スクールカウンセラー	田中 美希
2年2組	勝亦 真子	栄養教諭	加藤 祐望		工藤 雅恵
3年1組	細川 文恵	養護	武田 桃子	新人育成教員	松村 みゆき
4年1組	金澤 彩子		田井 萌子	非常勤教員	山田 京子
4年2組	和田 淳	学力向上推進ティーチャー	豊歳 寛	非常勤教員	岩崎 弘子
5年1組	深澤 和比古		鶴澤 道子		
6年1組	小山 未祐	事務	吉田 享代		

あ と が き

本校は、昭和 47 年以来、平成、そして令和へと絶え間なく人権教育の研究・実践・啓発に取り組んでまいりました。今年度は文部科学省人権教育研究指定校として研究・実践に取り組みました。

新学習指導要領の全面実施となり、子供たちに身に付けさせたい資質・能力として示された三つの柱（知識及び技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力・人間性等）の育成に向けて、各校ともに特色を生かした授業改善に邁進しています。本校においては、長年蓄積してきた人権課題に関わる取組、各教科等における取組に主体的・対話的で深い学びの視点を生かした授業実践を通してアプローチすることで、主体的に学び、考えを深めることのできる児童の育成を目指し研究を進めているところです。

ただ、今年度は、「新型コロナウイルス感染拡大」という経験したことのない状況の中で、例年のように講師を招聘しての研究授業及び研究協議会を複数回行うことはできませんでした。そのような中で、現場教員の研究に対する協働体制を再整備し、日常の OJT による授業力の向上、人権課題に関わる校内の研修を積み重ねてきました。

この一年の研究を通して「普遍的な視点からの取組」と「個別的な視点からの取組」を再確認した上で、今までの研究で培った内容を充実させていくことに注力しました。人権教育の視点を明確にした授業を行うことが、教科のねらいと人権教育のねらいの両方を達成することにつながることを改めて学びました。また、人権課題に関わる学習の系統性を効果的に進めるためにそれぞれの学年・教科等のカリキュラム・マネジメントを意識することが、全教員の授業力向上につながることも共通理解できました。日々の授業を地道に振り返り、全教員で授業改善を図っていくことこそが、子供たちの資質・能力の育成につながることを改めて確認することができました。

しかしながら、道はまだ半ばです。今後更に主体的・対話的で深い学びの視点を生かし、人権擁護の実践力の育成と思考力・判断力・表現力を高める効果的な指導法の充実を目指し、研究活動・教育活動を進めてまいります。研究のまとめとして本紀要を作成いたしました。御高覧いただければ幸いです。

本研究に際し、御指導いただきました講師の先生方、東京都教育庁指導部指導企画課の皆様、台東区教育委員会指導課の皆様に厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。

副校長 地平 憲司

裏表紙の内側
(印刷なし)

裏表紙
(印刷なし)